

府立学校の在り方懇話会高校教育部会（第11回）の開催概要

1 日 時 平成14年1月10日（木）10：00～10：40

2 場 所 京都府公館 レセプションホール

3 出席者

（部会委員）10名＜欠席2名＞

（京都府教育委員会）津守教育次長、塩見高校教育課長ほか

4 概要

(1) 協議

ア まとめ（案）の作成

まとめ（案）について、最終の確認が行われ、全体会には、（案）により報告することが了承された。

<委員の意見要旨>

- ・ 高校生の就職が非常に厳しくなっていることを考えると、公立高校でもそのことに関する対策をしていく必要がある。
- ・ 学校週5日制が、いよいよ4月から始まる。どのような状況になるのか予測は困難であるが、いろんな面での対応が必要になるだろう。適切な対応が望まれる。
- ・ この2年の間にも、中学校現場でも評価の問題など大きく変革が始まっている。先行き不透明な部分もあるが、高校との接続が大きな課題であると捉えている。まとめにある、新しい多様で柔軟な教育システムという言葉に総括されると思うが、今後高校も大きく変革していくわけで、その中で多様なシステムを作り上げてほしい。
- ・ 大学教育の普及率も上がってくる中では、これまで画一的になっていた教育から思い切って転換し、生徒の個性、適性それぞれに適した教育を行い、社会のあらゆる場面で活躍できる人間を育てていくことが大事だと考える。
しっかりした目的意識を持たずに入学する生徒が増えているという指摘もあったように、すべての生徒に明確な目的意識を持たせるような学校の改編を行うというねらいで施策を進めていただきたい。その際、いろいろ難しい場面も出てくること予想されるが、行政としてしっかりとしたねらいのもと、思い切った再編をしていただきたい。
- ・ トップリーダーの育成に加え、ミドルのリーダー、各ポジションでのリーダーとなる人を学校教育の中で育てる必要がある。余りにも、大樹の陰、人の言われるままという人が増えているように思う。自主性を持って、リーダーとしての自覚を持って動ける人を育てていただきたい。その一つの制度として、中高一貫教育制度をぜひ検討いただきたい。

- ・ 今後、このまとめの方向で施策化が進められることを期待する。
- ・ まとめに沿った新しいシステムをぜひとも早く実現する方向でお願いします。
- ・ 21世紀は、行政全体が子どもに視点をおくことが大事となると考えている。財政が厳しいときではあるが、教育にお金を使っていくことが必要だと考える。
- ・ 「おわりに」にあるように、府立高校の新しい多様で柔軟な教育システムが、「府立高校・市立高校・私立高校の三者」の中でいろんな意味を含んで機能が果たされるよう願っている。
- ・ 懇話会が開催されている2年の間にも、子どもたちを取り巻くいろんな事件がたくさん起こっている。学校現場も教育委員会もたいへんだとは思いますが、ぜひ、このまとめを踏まえ頑張ってください。
- ・ 少子化の中では府立高校の再編整備が必要なわけだが、府教委と市町村教育委員会が十分連携していくことが重要である。
- ・ 実際にまとめの具現化をしていく際には、様々なところでいろんな調整が必要になるであろう。腰を据えた前向きな取組をお願いします。